

# プロセスの視点に基づく アントレプレナーシップ研究の新たな展開（上） ——経営研究における影響力のある文献のレビュー（2013～2018年）——

関 智 宏

- I はじめに
- II 方法
- III 結果
  - III-1. アントレプレネリング
  - III-2. 認知的視点および起業行為（以上、本号）
  - III-3. 起業機会の発見／創造・評価・活用（以下、次号）
  - III-4. その他－理論化の検討，特定の事象と結びつけた研究展開－
- IV ディスカッション
- V 小結

## I はじめに

アントレプレナーシップ（entrepreneurship）をめぐる研究はいくつかの専門雑誌にますます盛り上がりを見せている。その中心的なトピックになってきたのが、プロセスの視点である（Gartner, 1985; Low and McMillan, 1988）。アントレプレナーシップは事業を起こすことを意味する起業に関連した用語であるが、それをめぐる議論はさまざまである（Frank and Landström, 2016）。さらに、アントレプレナーシップの用語それ自体の使われ方が多様であるように（McMullen et al., 2021），アントレプレナーシップの諸議論のなかでプロセスの視点を強調するさいの表現方法もまたさまざまである。たとえば、名詞としてもちいる場合のプロセスとしてのアントレプレナーシップ（entrepreneurship as process）（Chiles et al., 2007; 2017; McMullen and Dimov, 2013; Moroz and Hindle, 2012）や、形容詞としてもちいる場合のアントレプレネリアル・プロセス（entrepreneurial process）（Baron, 2008; DeTienne, 2010），さらに動詞としてもちいる場合のアントレプレネリング（entrepreneurering）（Goss et al., 2011; Steyaert, 2007）がある。

これらのように、プロセスの視点に基づくアントレプレナーシップ研究は拡がりを見せており、研究上の関心の高さをうかがうことができる。しかしながら、プロセスの視点に基づくアントレプレナーシップが何を具体的に指すものか、必ずしも定かではない。そこで筆者は、プロセスの視点に基づくアントレプレナーシップ研究のなかでも、

とくに他の研究に大きな影響を与えている 46 本の論文を対象にシステムティック・レビューを行った (関, 2021<sup>1</sup>)。その結果, ①誰が企 (起) 業家で誰が企 (起) 業家でないのか, ②組織としてのアントレプレナーシップ, ③起業機会の発見・評価・活用のプロセス, ④起業機会を発見するー認知, 知識, 学習, 意図からのアプローチ, 企 (起) 業家個人と起業機会のネクサス/起業機会を企 (起) 業家個人から切り離す, ⑤起業機会を創造する, ⑥アントレプレネリアル・プロセスの全体把握, ⑦認知的視点による研究展開のその後, ⑧エフェクチュエーションと起業行為, ⑨実践からのアプローチー実体から実践へ/解放からのアプローチーといった, 9つのテーマ・クラスターを導出し, その研究動向を示した (関, 2021)。

拙稿 (2021) によるシステムティック・レビューは, プロセスの視点に基づくアントレプレナーシップ研究が, 具体的にどのような内容であり, さらにどのように展開されてきたかを明らかにした点で重要な示唆をもたらした。しかしながら, システムティック・レビューの対象に影響の大きな論文に限定したために, 比較的最近の研究動向について把握することができなかった。そこで本研究では, 拙稿 (2021) を踏まえ, プロセスの視点に基づくアントレプレナーシップをめぐる比較的最近の諸研究をレビューし, 諸研究の動向とその特徴を把握していくことにしたい。

## II 方 法

本研究で検討の対象とするのは, 拙稿 (2021) において, プロセスの視点に基づくアントレプレナーシップをめぐる諸研究として収集した論文である。以下では, 拙稿 (2021) で採用した論文の収集方法を説明する。

レビュー対象となる論文を収集するにあたって, Clarivate 社の分析ツールである Web of Science<sup>TM</sup> のプラットフォーム (Version 5.35) を活用した。Web of Science<sup>TM</sup> では, いくつかのキーワードを入力して文献を検索するが, ここではプロセスの視点に基づくアントレプレナーシップを体現するものとして, entrepreneurial process, entrepreneurship as process, entrepreneuring の3つをトピックのキーワードとし, いずれかを含む文献を検索した。検索日は, 2020年12月24日であった。

検討する対象の学術領域を限定するために, Web of Science<sup>TM</sup> 内の分野を, BUSINESS と MANAGEMENT の2つとし, 検討対象を経営研究とした。さらにドキュメントタイプを ARTICLE と BOOK CHAPTER (書籍に所収されたある章) の2つとした。<sup>2</sup>

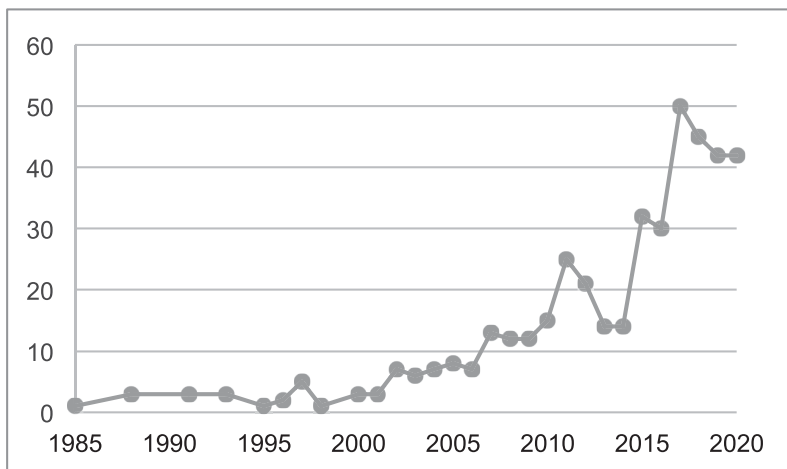
1 なお拙稿 (2021) では, プロセスの視点を強調したアントレプレナーシップのことを企 (起) 業家活動プロセスと表現している (関, 2021)。

2 ここで BOOK CHAPTER を含めたのは, システムティック・レビューの対象には, 「検証済みの知識」としてのジャーナル論文のみとする場合があるが (Podsakoff et al., 2005), アントレプレナーシップ /

文献を検索した結果、1本の重複を除く406本の論文が抽出された。また対象を「論文」に限定すべく、BOOK CHAPTERや、影響は大きいが、方法論の論文や、明らかに経営研究ではないと判断した論文を除外した。一方で、上のキーワードは含まれていないが、被引用件数が多い（ここでは21以上とした）論文を22本追加した。最終的に検討対象の論文は428本となった。

ここで、抽出した論文リスト内での相互引用の数を<sup>3</sup>6以上としたところ、46本の論文が抽出された。これら46本の論文の刊行年は、1985年から2012年までであった。検討対象の論文は、2021年刊行の1本を除いて、2020年までであったが、相互引用の数は、刊行年が古いほど大きくなる傾向があるために、刊行年が比較的新しい論文は、検討対象から除外されてしまう。しかしながら、すでに拙稿（2021）で指摘したように、プロセスの視点に基づくアントレプレナーシップ研究は、2000年代に入ってから論文の数が次第に増え始め、毎年10本前後の論文が刊行された後、2011年にその数は急に増加し、25本の論文が刊行され、その後いったん刊行数は低迷した時期もあったものの、2015年には32本、また2017年には50本と、再度その数を増やしており、その後は、その数はやや落ち込んだものの毎年40数本で推移している（図1ならびに関、2021）。このように2010年代以降のプロセスの視点に基づくアントレプレナーシップ研究は相当に活性しているとうかがえるものの、その展開がどのようなものであるかは明らかでなかった。そこで本研究では、検討対象となったプロセスの視点に基づくアントレプレナーシップにかんする428本の論文のなかで、引用分析の対象から外れた2013

図1 刊行年ごとの論文数の推移



出所：筆者作成（拙稿，2021）

ㄨ 研究，とくに企（起）業家活動プロセスをめぐって新興領域であるとみなされてきた時期には，書籍にも論文が掲載されてきたことが多くあったためである。

3 HistCite™ では，この相互引用の数は LCS（Local Citation Score）と呼ばれる。

年から2020年に刊行された論文241本を対象に、その展開の特徴を整理していくことにしたい。

本研究では、影響力のある文献をレビューすることを目的としているために、ここでも影響が大きい論文を絞り込む必要がある。そこで、影響の大きさを表すものとして、Web of Science<sup>TM</sup>のなかで引用された度合いを示すTimes Citedをとりあげ(Times Cited, Wos Core)、これが20以上の論文を対象とした。この結果、本研究の検討対象の論文は41本となった<sup>4</sup>。この41本の論文の一覧が、表1である。表1によれば、次の2つの点がわかる。1つに、41本の論文の刊行年は2013～2018年となっており、刊行年が2019年と2020年の論文は検討対象から除外されている。これは、引用度合いを20としていることから、比較的最近に刊行された論文が検索次点までにそれほど引用されていないためである。もう1つに、Web of Science<sup>TM</sup>内においてStam et al. (2014)の引用度合いが301と突出して多い。また、次点のBelz and Binder (2017)ならびに次々点のShirokova et al. (2016)は、論文の刊行年が比較的新しいにもかかわらず、引用度合いがそれぞれ97と82と多い。

### Ⅲ 結 果

プロセスの視点に基づくアントレプレナーシップ研究の潮流との関連性を考慮し、本研究の検討対象となる41本の論文の内容を精査した。その結果、次の4つのカテゴリーにわけることができる。それらは、1つにアントレプレネリング、2つに認知的視点および起業行動、3つに起業機会の発見／創造・評価・活用、4つにその他、である。以下では、これら4つのカテゴリーごとに、その内容をレビューしていく。ただし、紙幅の都合により、本稿ではこれら4つのカテゴリーのうち、前者2つをとりあげ、分析の結果を踏まえたディスカッションを含むそれ以降の内容は別稿にて掲載することにした。

#### Ⅲ-1. アントレプレネリング

1つ目のカテゴリーは、アントレプレネリングにかんするものである(Al-Dajani et al., 2015; Anderson and Ronteau, 2017; Belz and Binder, 2017; Chandra, 2017; Gherardi, 2015; Haugh and Talwar, 2016; Khoury and Prasad, 2016; Peroni et al., 2016; Tobias et al., 2013; Watson, 2013)。アントレプレネリングは、アントレプレナーシップを動詞ととらえようとするものであり、それにかんする議論は、Steyaert や Rindova ら、さらには

4 ここでTimes Citedを20以上としたのは、拙稿(2021)の引用分析のさいに検討対象とした論文が43本であり、その数にできるだけ近づけるためである(関, 2021)。

表1 検討対象とした論文のリスト（引用度合い順）

Authors	Publication Year	Times Cited, WoS Core	Publication
Stam et al.	2014	301	Journal of Business Venturing
Belz and Binder	2017	97	Business Strategy and the Environment
Shirokova et al.	2016	82	European Management Journal
Tobias et al.	2013	78	Journal of Business Venturing
Vanevenhoven and Liguori	2013	65	Journal of Small Business Management
Nordqvist et al.	2013	64	Small Business Economics
Ciravegna et al.	2014	63	Journal of Business Research
Haugh and Talwar	2016	52	Journal of Business Ethics
Mathias et al.	2015	52	Journal of Business Venturing
Hmieleski et al.	2015	49	Strategic Entrepreneurship Journal
Hayter et al.	2017	41	Journal of Technology Transfer
Selden and Fletcher	2015	41	Journal of Business Venturing
Khoury and Prasad	2016	39	Business & Society
Watson, Tony J.	2013	39	Entrepreneurship & Regional Development
Packard et al.	2017	37	Organization Science
Obschonka et al.	2015	35	Journal of Business and Psychology
Smith et al.	2017	35	Journal of Business Venturing
Al-Dajani et al.	2015	34	British Journal of Management
Gaddefors and Anderson	2017	33	International Journal of Entrepreneurial Behavior & Research
Mueller and Korsgaard	2018	32	Entrepreneurship & Regional Development
Leyden and Link	2015	31	Small Business Economics
Gupta et al.	2013	30	Entrepreneurship Theory and Practice
Leyden	2016	30	Small Business Economics
Johannisson	2016	29	Entrepreneurship & Regional Development
Passaro et al.	2018	28	Journal of Intellectual Capital
De Clercq and Zhou	2014	27	Journal of International Marketing
Gielnik et al.	2018	27	Journal of Applied Psychology
Kuckertz et al.	2017	25	International Journal of Entrepreneurial Behavior & Research
Anderson and Ronteau	2017	24	Journal of Entrepreneurship in Emerging Economies
Baldacchino et al.	2015	24	International Journal of Management Reviews
Gherardi	2015	24	International Small Business Journal
Hui-Chen et al.	2014	24	International Entrepreneurship and Management Journal
McCann and Vroom	2015	23	International Small Business Journal
Campopiano et al.	2016	21	International Journal of Contemporary Hospitality Management
Harmeling and Sarasvathy	2013	21	Entrepreneurship Theory and Practice
van Gelderen et al.	2018	21	Small Business Economics
Chandra	2017	20	Journal of Business Venturing
Elston et al.	2016	20	Small Business Economics
Moroz et al.	2018	20	Journal of Business Venturing
Nieto and Gonzalez-Alvarez	2016	20	International Entrepreneurship and Management Journal
Peroni et al.	2016	20	Small Business Economics

出所：筆者作成

Goss らによる研究が知られている (Goss et al., 2011; Rindova et al., 2009; Steyaert, 2004; 2007)。

Steyaert (2007) では、プロセスとしてのアントレプレナーシップを意味するアントレプレネリングの概念化が目指されており、組織研究などで採用されている社会理論化の実践からのアプローチから (Schatzki 2002; 2005)、アントレプレナーシップのプロセスを実践的に捉えようという試みがなされている。Steyaert によれば、ここでの実践には日常的なものも含まれているという (Steyaert, 2004)。さらに Steyaert は、アントレプレネリングの概念は、1 つには、物体と主体が切り離された二元論的な世界を壊し、生きた世界と経験の中にプロセスを位置づけることによって、プロセスとしてのアントレプレナーシップに対する理解を「濃く」するのに役立つこと、またもう 1 つには、生活し、観察可能な経験に接続し、文化的、政治的、社会的な力の会話の織り交ぜへの接続を強調する実践の概念に集中することによって概念的な焦点を変更すること、という点で有用であると指摘している (Steyaert, 2007)。また Rindova らや Goss らは、従来のアントレプレナーシップ研究が、起業をつうじた富の創出に焦点が絞られすぎていたこと、また市場機会の発掘や成長企業の成立を伴う経済活動と定義する機能主義的かつ実証主義的な前提にとらわれてきたことを問題視している (Goss, 2005; Goss et al., 2011)。これらのなかでも Rindova et al. (2009) は「解放 (emancipation)」の視点からアントレプレネリングを論じ、そこに、別の権威による制約からの解放 (「自律性を求める」こと) を、行為の主体者として関係性や取り決め、また関与のルールを定義づける (「オーサリングする」) こと、そして変化を生み出す行為者の意図にかんするあいまいな言説的・修辭的行為 (「宣言を行う」こと) を、それぞれ内包させた。

本研究の検討対象となった論文のなかでも、アントレプレネリングにかんする議論は、いっそう活性の様子を見せている。とりわけ Watson (2013) は、企 (起) 業家個人から、その社会的・制度的コンテキストにおけるアントレプレネリングという、より広範な現象への焦点の移行を促し、個々の起業行為への注目とその組織的、社会的、制度的コンテキストとの間のより良いバランスを達成することで、アントレプレナーシップ研究がより豊かになりかつその範囲を拡大する可能性を指摘している。さらに Watson (2013) は、アントレプレナーシップに関する研究が、経済学と心理学の分野に支配され、限定された方法論、すなわちアメリカ主導の研究の主流を占める科学主義的かつ個人主義的な枠組の内で行われていることに対して懸念を表明している。そのうえで、よりバランスの取れた研究を行うためには、ヨーロッパとアメリカのルーツが深く絡み合った、別のスタイルの研究と分析に目を向けることが有効であるとし、社会学のような他の社会科学や、歴史学、科学哲学への注目を提案している。

アントレプレネリングを検討するさいに、さまざまな学術領域を採用する必要がある

のは、Watson が指摘するように、個々の起業行為（entrepreneurial action）への注目とその組織的、社会的、制度的コンテキストとの間のより良いバランスを達成するためである。とくに、各々の社会的・制度的コンテキストを分析単位とし、コンテキストのなかで起業に関連して起こっているさまざまな現象を検討することで、アントレプレナーシップは「狭い個人主義から社会的要因」へと検討対象をより拡大させることにつながった（Gaddefors and Anderson, 2017）。

コンテキストのなかでも、とりわけ地域ごとの違いが着目され出し、アメリカだけでなく、それ以外の諸国、具体的には、欧州（Harmeling and Sarasvathy, 2013; Peroni et al., 2016）やアジア（Chandra, 2017; Elston et al., 2016; Haugh and Talwar, 2016）、さらに新興諸国（Anderson and Ronteau, 2017; Khoury and Prasad, 2016; Tobias et al., 2013）を対象とした議論が展開されている。たとえば、Peroni et al.（2016）は、移民が多いルクセンブルクにおいて、新しいビジネス・イニシアティブを生み出すうえでの移民のコンテキストと教育が果たす役割を分析し、高学歴の移民を誘致する政策がルクセンブルクにおける起業のイニシアチブを促進することができると主張している。また Harmeling and Sarasvathy（2013）は、紛争で荒廃した東クロアチアの大学と、アメリカの都心部の高校で行われているアントレプレナーシップ教育という、まったく異なる環境におけるアントレプレナーシップ教育プログラムを立ち上げた2人の企（起）業家について比較検討を行い、コンティンジェンシーの役割について考察している。

また Chandra（2017）は、かつて Rindova et al.（2009）が提唱した「解放としてのアントレプレネリング」との関連から、インドネシアにおける元テロリストと、彼らの社会事業であるカフェチェーンをとりあげ、彼ら彼女たちがアントレプレナーシップを発揮することで、個人がイデオロギーの制約から逃れられるだけでなく、人生の新しい意味、新しい社会的役割やつながりを構築し、新しい未来を築くための基盤となることをとおして、解放を達成したことを指摘した。また Elston et al.（2016）は、中国において、零細企業が利用するインフォーマル資本の性質と役割を検証し、企（起）業家の個人貯蓄と家族資金が起業資金の重要な供給源であることを実証した。

これらのようにアメリカ以外の諸国、とりわけ欧州やアジアでの現象をとりあげた議論も展開されているが、とくに新興諸国でのアントレプレナーシップは、このテーマに特化した専門の国際ジャーナル *Journal of Entrepreneurship in Emerging Economies* が創刊されるなどその重要性が高まっている。とくに Anderson and Ronteau（2017）は、アントレプレネリングの理論を新興国経済に適用させることで、その説明力を検証し、理論の補完を目指すべきと主張した。Tobias et al.（2013）は、ルワンダの起業を生み出すコーヒーセクターの農村住民の視点から、貧困と紛争の指標の相互関係を評価し、変革型アントレプレネリングの概念化を試みることで、アントレプレナーシップが繁栄と平

和の触媒となる可能性および、貧困の緩和と紛争の軽減が、とくに生活の質の向上を介して、個人の認識と連続的に結びついていることを示唆した。

これらのように、アントレプレネリングは、地域のコンテキストとの関連で議論されてきたが、都市部でなく地方、とりわけ農村の地域社会といった特定地域に焦点を当てた研究も展開している。たとえば、Muller and Korsgaard (2018) は、農村部の企（起）業家にとって空間的コンテキストがどのような役割を果たすのかについて考察し、事例研究を通じて、農村の起業活動の空間化の2つの様式を、資源保有と空間的橋渡しという形で明らかにした。

さらにアントレプレネリングは、地域のコンテキストに加え、ジェンダーと関連させた複合的な領域で議論する諸研究も展開している。たとえば、Gherardi (2015) は、女性が企（起）業家になるプロセスを「私」がワーク・ライフ・バランスに関連する物語や言説のプロセスを通じてどのようにオーサリングされるか（Rindova et al., 2009）という観点から考察している。また Al-Dajani et al. (2015) は、仲介組織が伝統的な手工芸品を女性生産者から購入するマイクロ・ビジネス開発プロジェクトの縦断的分析を行うことで、女性の利益を守るために独占的な契約条件を課す仲介者が、実際には女性の起業活動の解放の可能性をいかに制約しているかを指摘するとともに、このような契約上の制約が、女性たちが自分たちの活動をコントロールするために、これらの制約に挑戦することを可能にする協力的なネットワークを生み出すことを指摘している。さらに、Haugh and Talwar (2016) は、社会的・文化的規範がアントレプレナーシップに影響を及ぼしている点に着目し、とくに開発途上国のなかでも北インドの農村社会事業の女性がアントレプレナーシップにどの程度関与し、その利益を享受しているかを検討し、女性の経済活動を促進すると同時に、女性の主体性を制約する地域の社会的・文化的規範を遵守する革新的なビジネスプロセスは、社会秩序そのものを変化させると指摘している。

### Ⅲ-2. 認知的視点および起業行為

2つ目のカテゴリーは、認知的視点および起業行為にかんするものである（Baldacchino et al., 2015; Hui-Chen et al., 2014; Kuckertz et al., 2017; Mathias et al., 2015; Moroz et al., 2018; Obschonka et al., 2016; Packard et al., 2017; Shirokova et al., 2016; van Gelderen et al., 2018）。アントレプレナーシップに関連した認知的視点は、もともとは企（起）業家がなぜ起業を実現することができたのかかという、企（起）業家個人の起業にかかる心理的側面に焦点を当てた研究に端を発している。それは、具体的には、Bird による心理的要因の1つとしての起業意図（entrepreneurial intention）であり（Bird, 1988）、企（起）業家になる個人は、起業に何らかの意図をもつというものである。その後、



2000 年前後から、認知心理学の研究者がアントレプレナーシップ研究に参入し (Mitchell et al., 2002), それ以降、認知的視点のアントレプレナーシップ研究がいつもの拡がりを見せることになった。すなわち、起業意図への着目から、起業機会の認識の違い、すなわち、ある人は機会を認識し、他の人は機会を認識しないのかという観点から、認知処理の違いに着目することになった (Baron, 1998; Mitchell et al., 2000)。ここでは、企（起）業家個人が、起業機会を見る能力（すなわち認知）、あるいは機会を見たらその機会を開拓する能力が、他の人とは大きく異なることが前提とされている (Kirzner, 1973; Shane, 2003)。

アントレプレナーシップには、認知的視点だけでなく起業行為が必要であり、その行為がシステム全体の活動や成果に影響を与えるメソレベル現象を伴うという主張がある (McMullen and Shepherd, 2006; Stevenson and Jarillo, 1990)。ここでは企（起）業家は、判断力を発揮する個人とされている。McMullen and Shepherd (2006) では、判断とは、不確実性の高い未来において行われる代替的な行動コースの間で意思決定を行うために行使されなければならないものであるとされている。しかし、判断するだけでは十分ではなく、行動することを決断しなければならない。起業行為とは、不確実性の下で価値のある機会について判断に応じた行動のことである (McMullen and Shepherd, 2006)。起業行為が起こるかどうかは、企（起）業家個人の判断にかかっているが、それは行動するかどうかの判断の不確実性の大きさによる。しかし企（起）業家にとっては不確実性に耐える意志が重要である。この意志は、信念と欲望の構成 (belief-desire configuration) であるが、何をすべきかの信念が知識の機能であり、なぜそれをすべきかの欲求が動機の機能である。起業行為の理解には、これら知識と動機を同時に考慮する必要があるという (McMullen and Shepherd, 2006)。

これらにみられるように、認知的視点は起業行為の視点と融合しながら、さらに深堀をみせ、その後においてもアントレプレナーシップ研究の新しい領域を開拓してきている。たとえば、Hui-Chen et al. (2014) は、人が企（起）業家になる過程を検討するモデルを構築したうえで、動機、機会、能力が、個人の態度、主観的規範、知覚された行動制御を通じて、起業意図に影響を与えることを検証している。また Shirokova et al. (2016) は、すべての起業意図が最終的にベンチャーの設立や運営といった実際の行動に転換されるわけではないとして、学生企（起）業家の意図と行動のギャップを精査し、個人（家族の背景、年齢、性別）および環境特性（大学の環境、不確実性回避）が起業意図から起業行動への変換に影響を与えていると指摘している。さらに、van Gelderen et al. (2018) は、行動段階理論 (action phase theory) を用いて起業意図のモデルを拡張し、実行意図が起業行動をとることに及ぼす影響を検証している。さらに Kuckertz et al. (2017) は、機会認知と機会活用のそれぞれの構成概念の内容領域の明確

な規定と、それらを測定するための有効で信頼性の高い多項目尺度の両方が欠如しているとして、内容領域を定義し、さらに概念を測定するための尺度項目を提案している。そして Packard et al. (2017) は、さまざまなタイプの不確実なコンテキストを定義づけ、これらの異なるコンテキストにおける意思決定の性質を調べ、異なるタイプの不確実性の中で企（起）業家がどのように意思決定を行うかの違いを明らかにしている。とくに Packard らは、McMullen and Shepherd (2006) で触れられた判断に着目しており、企（起）業家が一定の判断を下し、時間をかけてその判断を修正するさいに、不確実性が一過性のものであることを強調するとともに、判断の過程で不確実性がどのように遷移するか、判断がなされた後も判断過程が動的に継続するか、内生的・外生的な変化により不確実性の性質が時間とともにどのように変化するかを議論している。

認知的視点と起業行為に関連した諸研究のなかには、従前の研究でもちいられなかった概念を追加し、新しい研究視角の導入を図ろうとする研究もみられた。たとえば、Obschonka et al. (2015) は、自己アイデンティティの観点から、起業につながる自己アイデンティティのおもな効果を実証している。ここで自己アイデンティティは、過去の行動、人格構造、想起される青年期のコンピテンシー、初期の親のロールモデルによって予測可能であるだけでなく、それは、起業につながる過程における動機づけ要因として作用することを指摘している (Obschonka et al., 2015)。また Baldacchino et al. (2015) は、直感 (intuition) の観点から、直感をおもに無意識的で、連想的で、高速で、文脈に依存する情報処理方法として位置づけることで、直感に特定の関心を持つ起業認知 (entrepreneurial cognition) の研究者の将来の研究の指針となるようなアジェンダを作成し、直感を利用した起業認知の研究の価値や進め方について、起業認知に関する文献のギャップを埋めようとしている。さらに Mathias et al. (2015) は、刷り込みプロセス (imprinting process) の観点から、移行期の敏感な時期における企（起）業家の形成的な経験（これを「刷り込みプロセス (imprinting process) と呼ぶ）を検証している。また、これらの刷り込みの源泉が企（起）業家の意思決定にどのような影響を与えるかを説明し、企（起）業家としてのキャリアを歩むなかで、それらがどのように企（起）業家の意思決定を導いているかを説明している。また Moroz et al. (2018) も、企（起）業家の形成的な経験としての刷り込みプロセスに着目し、経験するうえではその目的が存在することを強調し、向社会性 (prosociality) の探求と起業機会との関連性、すなわち向社会性の探求が、時間とともにどのように、そしてなぜ変化に抵抗したり受け入れたりするのか、どのような効果をもたらすのか、最終的にどのように機会が生まれ変わるのか、などを議論している。

以上、本稿では、プロセスの視点に基づくアントレプレナーシップ研究の潮流との関

連性を考慮し、本研究の検討対象となる41本の論文の内容を精査し、1つにアントレプレネリング、2つに認知的視点および起業行動、3つに起業機会の発見／創造・評価・活用、4つにその他、の4つのカテゴリーを導出し、前者2つをとりあげ、その内容を提示した。後者2つの内容の提示およびそれらを踏まえたディスカッションは、別稿にて掲載することにした。

#### 参考文献

- 関智宏（2021）「企（起）業家活動プロセスをめぐる諸研究をマッピングする－経営研究における影響力のある文献のシステムティック・レビュー」同志社大学商学会『同志社商学』第72巻第5号：929-969。
- Al-Dajani, H., Carter, S., Shaw, E. and Marlow, S. (2015) "Entrepreneurship among the displaced and dispossessed: Exploring the limits of emancipatory entrepreneuring," *British Journal of Management*, 26: 713-730.
- Anderson, A. and Ronteau, S. (2017) "Towards an entrepreneurial theory of practice: Emerging ideas for emerging economies," *Journal of Entrepreneurship in Emerging Economies*, 9(2) : 110-120.
- Baldacchino, L., Ucbasaran, D., Cabantous, L. and Lockett, A. (2015) "Entrepreneurship research on intuition: A critical analysis and research agenda," *International Journal of Management Reviews*, 17: 212-231.
- Baron, R. A. (1998) "Cognitive mechanisms in entrepreneurship: Why and when entrepreneurs think differently than other people," *Journal of Business Venturing*, 13(4) : 275-294.
- Baron, R. A. (2008) "The role of affect in the entrepreneurial process," *Academy of Management Review*, 33(2) : 328-340.
- Belz, F. M. and Binder, J. K. (2017) "Sustainable entrepreneurship: A convergent process model," *Business Strategy and the Environment*, 26(1) : 1-17.
- Bird, B. (1988) "Implementing entrepreneurial ideas: The case for intention," *Academy of Management Review*, 13(3) : 442-453.
- Campopiano, G., Minola, T. and Sainaghi, R. (2016) "Students climbing the entrepreneurial ladder: Family social capital and environment-related motives in hospitality and tourism," *International Journal of Contemporary Hospitality Management*, 28(6) : 1115-1136.
- Chandra, Y. (2017) "Social entrepreneurship as emancipatory work," *Journal of Business Venturing*, 32(6) : 657-673.
- Chiles, T. H., Bluedorn, A. C. and Gupta, V. K. (2007) "Beyond creative destruction and entrepreneurial discovery: A radical Austrian approach to entrepreneurship," *Organization Studies*, 28(4) : 467-493.
- Chiles, T. H., Elia, S. R. S. T. A. and Li, Q. (2017) "Entrepreneurship as process," in Langley, A. and Tsoukas, H. eds., *The Sage Handbook of Process Organization Studies*, London: Sage Publications: 432-450.
- Ciravegna, L., Majano, S. B. and Zhan, G. (2014) "The inception of internationalization of small and medium enterprises: The role of activeness and networks," *Journal of Business Research*, 67(6) : 1081-1089.
- De Clercq, D. and Zhou, L. (2014) "Entrepreneurial strategic posture and performance in foreign markets: The critical role of international learning effort," *Journal of International Marketing*, 22(2) : 47-67.
- DeTienne, D. R. (2010) "Entrepreneurial exit as a critical component of the entrepreneurial process: Theoretical development," *Journal of Business Venturing*, 25(2) : 203-215.
- Elston, J. A., Chen, S. and Weidinger, A. (2016) "The role of informal capital on new venture formation and growth in China," *Small Business Economics*, 46(1) : 79-91.
- Frank, H. and Landström, H. (2016) "What makes entrepreneurship research interesting? Reflections on strategies to overcome the rigour-relevance gap," *Entrepreneurship & Regional Development*, 28(1-2) : 51-75.

- Gaddefors, J. and Anderson, A. R. (2017) "Entrepreneursheep and context: When entrepreneurship is greater than entrepreneurs," *International Journal of Entrepreneurial Behavior & Research*, 23(2) : 267-278.
- Gartner, W. B. (1985) "A conceptual framework for describing the phenomenon of new venture creation," *Academy of Management Review*, 10(4) : 696-706.
- Gherardi, S. (2015) "Authoring the female entrepreneur while talking the discourse of work-family life balance," *International Small Business Journal*, 33(6) : 649-666.
- Gielnik, M. M., Zacher, H. and Wang, M. (2018) "Age in the entrepreneurial process: The role of future time perspective and prior entrepreneurial experience," *Journal of Applied Psychology*, 103(10) : 1067-1085.
- Goss, D. (2005) "Entrepreneurship and 'the social': Towards a deference-emotion theory," *Human Relations*, 58(5) : 617-636.
- Goss, D., Jones, R., Betta, M. and Latham, J. (2011) "Power as practice: A micro-sociological analysis of the dynamics of emancipatory entrepreneurship," *Organization Studies*, 32(2) : 211-229.
- Gupta, V. K., Turban, D. B. and Pareek, A. (2013) "Differences between men and women in opportunity evaluation as a function of gender stereotypes and stereotype activation," *Entrepreneurship Theory and Practice*, 37(4) : 771-788.
- Harmeling, S. S. and Sarasvathy, S. D. (2013) "When contingency is a resource: Educating entrepreneurs in the Balkans, the Bronx, and beyond," *Entrepreneurship Theory and Practice*, 37(4) : 713-744.
- Haugh, H. M and Talwar, A. (2016) "Linking social entrepreneurship and social change: The mediating role of empowerment," *Journal of Business Ethics*, 133(4) : 643-658.
- Hayter, C. S., Lubynsky, R. and Maroulis, S. (2017) "Who is the academic entrepreneur? The role of graduate students in the development of university spinoffs," *Journal of Technology Transfer*, 42(6) : 1237-1254.
- Hmieleski, K. M., Carr, J. C. and Baron, R. A. (2015) "Integrating discovery and creation perspectives of entrepreneurial action: The relative roles of founding CEO human capital, social capital, and psychological capital in contexts of risk versus uncertainty," *Strategic Entrepreneurship Journal*, 9(4) : 289-312.
- Hui-Chen, C., Kuen-Hung, T. and Chen-Yi, P. (2014) "The entrepreneurial process: An integrated model," *International Entrepreneurship and Management Journal*, 10(4) : 727-745.
- Johannisson, B. (2016) "Limits to and prospects of entrepreneurship education in the academic contexts," *Entrepreneurship & Regional Development*, 28(5-6) : 403-423.
- Khoury, T. A. and Prasad, A. (2016) "Entrepreneurship amid concurrent institutional constraints in less developed countries," *Business & Society*, 55(7) : 934-969.
- Kirzner, I. M. (1973) *Competition and Entrepreneurship*, Chicago: University of Chicago Press.
- Kuckertz, A., Kollmann, T., Krell, P. and Stoeckmann, C. (2017) "Understanding, differentiating, and measuring opportunity recognition and opportunity exploitation," *International Journal of Entrepreneurial Behavior & Research*, 23(1) : 78-97.
- Leyden, D. P. (2016) "Public-sector entrepreneurship and the creation of a sustainable innovative economy," *Small Business Economics*, 46(4) : 553-564.
- Leyden, D. P. and Link, A. N. (2015) "Toward a theory of the entrepreneurial process," *Small Business Economics*, 44(3) : 475-484.
- Low M. B. and MacMillan, I. C. (1988) "Entrepreneurship: Past research and future challenges," *Journal of Management*, 14(2) : 139-161.
- Mathias, B. D., Williams, D. W. and Smith, A. R. (2015) "Entrepreneurial inception: The role of imprinting in entrepreneurial action," *Journal of Business Venturing*, 30(1) : 11-28.
- McCann, B. T. and Vroom, G. (2015) "Opportunity evaluation and changing beliefs during the nascent entrepreneurial process," *International Small Business Journal*, 33(6) : 612-637.
- McMullen, J. S. and Dimov, D. (2013) "Time and the entrepreneurial journey: The problems and promise of studying entrepreneurship as a process" *Journal of Management Studies*, 50(8) : 1481-1512.

- McMullen, J. S. and Shepherd, D. A. (2006) "Entrepreneurial action and the role of uncertainty in the theory of the entrepreneur," *Academy of Management Review*, 31(1) : 132-152.
- McMullen, J. S., Ingram, K. M. and Adams, J. (2021) "What makes an entrepreneurship study entrepreneurial? Toward a unified theory of entrepreneurial agency," *Entrepreneurship Theory and Practice*, 45(5) : 1197-1238.
- Mitchell, R. K., Busenitz, L., Lant, T., McDougall, P. P., Morse, E. A. and Smith, J. B. (2002) "Toward a theory of entrepreneurial cognition: Rethinking the people side of entrepreneurship research," *Entrepreneurship Theory and Practice*, 27(2) : 93-104.
- Mitchell, R. K., Smith, B., Seawright, K. W. and Morse, E. A. (2000) "Cross-cultural cognitions and the venture creation process," *Academy of Management Journal*, 43(5) : 974-993.
- Moroz, P. W. and Hindle, K. (2012) "Entrepreneurship as a process: Toward harmonizing multiple perspectives," *Entrepreneurship Theory and Practice*, 36(4) : 781-818.
- Moroz, P. W., Branzei, O., Parker, S. C. and Gamble, E. N. (2018) "Imprinting with purpose: Prosocial opportunities and B Corp certification," *Journal of Business Venturing*, 33(2) : 117-129.
- Mueller, S. and Korsgaard, S. (2018) "Resources and bridging: The role of spatial context in rural entrepreneurship," *Entrepreneurship & Regional Development*, 30(1-2) : 224-255.
- Nieto, M. and Gonzalez-Alvarez, N. (2016) "Social capital effects on the discovery and exploitation of entrepreneurial opportunities," *International Entrepreneurship and Management Journal*, 12(2) : 507-530.
- Nordqvist, M., Wennberg, K., Bau, M. and Hellerstedt, K. (2013) "An entrepreneurial process perspective on succession in family firms," *Small Business Economics*, 40(4) : 1087-1122.
- Obschonka, M., Silbereisen, R. K., Cantner, U. and Goethner, M. (2015) "Entrepreneurial self-identity: Predictors and effects within the theory of planned behavior framework," *Journal of Business and Psychology*, 30(4) : 773-794.
- Packard, M. D., Clark, B. B. and Klein, P. G. (2017) "Uncertainty types and transitions in the entrepreneurial process," *Organization Science*, 28(5) : 840-856.
- Passaro, R., Quinto, I. and Thomas, A. (2018) "The impact of higher education on entrepreneurial intention and human capital," *Journal of Intellectual Capital*, 19(1) : 135-156.
- Peroni, C., Riillo, C. A. F. and Sarracino, F. (2016) "Entrepreneurship and immigration: Evidence from GEM Luxembourg," *Small Business Economics*, 46(4) : 639-656.
- Podsakoff, P. M., MacKenzie, S. B., Bachrach, D. G. and Podsakoff, N. P. (2005) "The influence of management journals in the 1980s and 1990s," *Strategic Management Journal*, 26(5) : 473-488.
- Rindova, V., Barry, D. and Ketchen, J. D. (2009) "Entrepreneurship as emancipation," *Academy of Management Review*, 34(3) : 477-491.
- Schatzki, T. R. (2002) *The Site of the Social: A Philosophical Account of the Constitution of Social Life and Change*, University Park, PA: The Pennsylvania State University Press.
- Schatzki, T. R. (2005) "The sites of organizations," *Organization Studies*, 26(3) : 465-484.
- Selden, P. D. and Fletcher, D. E. (2015) "The entrepreneurial journey as an emergent hierarchical system of artifact-creating processes," *Journal of Business Venturing*, 30(4) : 603-615.
- Shane, S. (2003) *A General Theory of Entrepreneurship: The Individual-Opportunity Nexus Approach to Entrepreneurship*, Cheltenham, UK: Edward Elgar.
- Shirokova, G., Osiyevskyy, O. and Bogatyreva, K. (2016) "Exploring the intention-behavior link in student entrepreneurship: Moderating effects of individual and environmental characteristics," *European Management Journal*, 34(4) : 386-399.
- Smith, C., Smith, J. B. and Shaw, E. (2017) "Embracing digital networks: Entrepreneurs' social capital online," *Journal of Business Venturing*, 32(1) : 18-34.
- Stam, W., Arzlanian, S. and Elfring, T. (2014) "Social capital of entrepreneurs and small firm performance: A

- meta-analysis of contextual and methodological moderators,” *Journal of Business Venturing*, 29(1) : 152-173.
- Stevenson, H. H. and Jarillo, J. C. (1990) “A paradigm of entrepreneurship: Entrepreneurial management,” *Strategic Management Journal*, 11: 17-27.
- Steyaert, C. (2004) “The prosaics of entrepreneurship,” in Hjorth, D. and Steyaert, C. eds., *Narrative and Discursive Approaches in Entrepreneurship*, Cheltenham: Edward Elgar: 8-21.
- Steyaert, C. (2007) “Entrepreneurship as a conceptual attractor: A review of process theories in twenty years of entrepreneurship studies,” *Entrepreneurship & Regional Development*, 19(6) : 453-477.
- Tobias, J. M., Mair, J. and Barbosa-Leiker, C. (2013) “Toward a theory of transformative entrepreneurship: Poverty reduction and conflict resolution in Rwanda’s entrepreneurial coffee sector,” *Journal of Business Venturing*, 28(6) : 728-742.
- van Gelderen, M., Kautonen, T., Wincent, J. and Biniari, M. (2018) “Implementation intentions in the entrepreneurial process: concept, empirical findings, and research agenda,” *Small Business Economics*, 51(4) : 923-941.
- Vanevenhoven, J. and Liguori, E. (2013) “The impact of entrepreneurship education: Introducing the entrepreneurship education project,” *Journal of Small Business Management*, 51(3) : 315-328.
- Watson, T. J. (2013) “Entrepreneurial action and the Euro-American social science tradition: Pragmatism, realism and looking beyond ‘the entrepreneur’,” *Entrepreneurship & Regional Development*, 25(1-2) : 16-33.